

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体の理念をそのまま使用しているが事業所独自の理念は作成していない。	○	全職員が現在の理念を理解しているが地域密着型サービスの役割を地域のニーズや事業所の状況に合わせ独自の理念を作成していきたい。
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員が理念を理解しており言葉がけ、環境整備等日々のサービス提供場面に反映している。	○	事業所独自の理念を作成することにより全職員が理解し地域との関わり方を考え実践に向けて取り組んでいる。
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族に対しては理念を入居時説明及び玄関ホールに掲示してある他地域の方には社協に事業所だよりを配っているが理念についての説明等は出来ない。	○	地域の方に理解してもらえようように集会等に参加して行き地域の方に事業所の日々のサービス等について伝えていく。
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地域の方とのつきあいは法人全体の「お祭り」が主で普段の交流は出来ない状況であり、事業所の専門性を生かした地域への還元も出来ないが、入居者・職員は散歩等で地域の方にはあいさつなどを交わしている。	○	地域の方が気軽に立ち寄れるように地域の行事や集いに参加し顔なじみとなり行き来できる様に検討し実践できる様に取り組んでいきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	○	今後も全職員で自己評価に取り組みサービスの質の確保に努めていきたい。
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	○	会議参加者が少ない状況でありこちらからの報告が主となっており、参加者を増すよう広報していく他参加者の意見・要望についてはサービス向上に生かすようにしていきたい。
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	○	必要に応じて入居者の利便性の向上など生活の質を高めるための課題解決に向けて市担当者との連携を図っていきたい。
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	○	研修等に参加し全職員が理解できるように勉強会を行い必要な方に対しては説明し活用できるように支援していく。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	○	高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会をつくり虐待が見過ごされることがないように全職員で検討していく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている		契約書・重要事項説明書に変更があった場合も利用者・家族に不安をあたえないように再度説明を行い、理解・納得してもらっている。
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	○	利用者本人が意見や苦情が出しやすいような雰囲気・働きかけをしそれに対してすぐに答えがでせるようにしておく。
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	○	家族に対して利用者の状況を積極的に報告していく他施設の情報提供を増し家族に不安を与えないようにしていきたい。
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	○	苦情・意見が出しにくいことを考慮し職員サイドから意見や要望を尋ねるなどの機会を増していき意見・要望等についてはすぐに答えが出せるようにしていく。
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	○	職員の意見を聞く機会を設けているのだから反映するように努力していき意見・提案で反映できない部分については説明していき職員の意欲低下防止につなげたい。
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	○	基準は満たしているが柔軟な対応ができる人員配置を確保するように勤務の調整に努めていく

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動については必要最小限に抑えるようにしている他異動については入居者に十分説明している。また新しく来た方についても利用者の引継ぎを行っている。	○	利用者のダメージを防ぐ為に異動がないよう提案していく。
5. 人材の育成と支援				
17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得や研修参加には出来る限り参加を促している。研修参加者は報告書を提出し全職員で内容を回覧している。又外部の業務について助言する人材を確保している。	○	出来る限り研修に参加させ職員の資質の向上に努めたい。
18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流する機会は研修会場でしかないが職員の中には個人的な付き合いがあり相互の問題点やサービス等について連絡している。	○	他グループホームの見学や研修会参加で日々のサービスの向上につなげたい。
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員に対して意見を求めているが話しにくい状況がまだあるも定期的に職員内で親睦会を行っている。	○	意見が普通に生かせるような工夫や環境づくりに取り組めるように努力したい。
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の資格取得について職場内で生かせるように進めている。職員が日々現場で努力していることについては把握できていないが各自向上心を持って働いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居申し込みの際利用者・家族が安心して暮らせるように話をよく聞き不安解消に努め信頼関係が出来るように努力している。		入居希望者や家族の身体状況・ニーズの把握に努めている。
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者・家族のニーズについて理解し担当ケアマネージャーとも相談し現在必要と思われる支援について説明している。		
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心して生活できるように家族との連絡調整は行っているが、全利用者がここでの生活に納得して入居しているとは思われない。	○	家族・知人の協力を依頼しグループホームの見学や暮らしぶりを体験しなれてもらう。 都合により急な入居者に対しては不安がらないように面会の依頼をお願いする。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に生活作業を行うことで教えられることが多く（調理方法）感謝する場面がある。又お互いに協力することで支えあう関係づくりに努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族には利用者の普段の生活についての情報を提供してもらっている他事業所側からも入居者の状況を連絡して共有しているが、利用者の希望に対して協力的ではない家族が中にはある。	○	家族の思いを把握することで利用者に対して協力できることを考えていく必要がある。
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族に対しては利用者の普段の生活状況について面会時や電話等で伝えている他疎遠となっている場合は問題点の改善に取り組んでいる。		良い関係になるように問題点の改善に積極的に取り組んでいきたい。
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が行きたい場所があれば希望に沿うように努力している他電話で知人に連絡することも支援しているが希望する利用者だけになっている。	○	利用者の馴染みの場所、人の把握をしていき、関係が途切れないような支援に取り組んでいきたい。
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者が自分の役割を持ち利用者同士が支えあう場面はよくあり、会話がもてるように話題の提供もしている。又お互いに気の合う・合わない方についても把握している。		日常の観察で感じることは職員で検討し利用者の関係性を良い方向へと考えている。
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他事業所に移った方に対してはこちらから面会に行ったり来てもらっているが、家族に対しては関係を持てていない。	○	家族に対して退居後も必要に応じて相談できるような体制を作っていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望・要望は普段の会話の中から確認と把握に努めている他、困難な方に対しては家族からの情報・希望を取り入れ本人本位となるように努めている。	本人の希望をかなえるように十分に職員間で検討しているが利用者・家族の思いが困難な方についても、本人が満足できるように工夫していきたい。
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報収集他、利用者本人との会話の中で本人の個性・価値観等を把握できるように努めている。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	グループホームの日課はあるが本人のペースに合わせるように努力しており、利用者ができること・困難なこと等状況の変化を利用者ごとに確認し利用者の生活リズムを把握している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者の状況に合わせた介護計画を作成しているが利用者や家族の意見・要望を取り入れているものの、意見・要望自体が少なく職員側からのものが多くなっている。	○ 利用者本位の介護計画となるように利用者家族の要望を具体的に引き出す工夫をしていき、職員側からも利用者本位となるように話し合いを重ねていき作成していきたい。
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的又は状況変化が生じた場合に見直ししており、本人や家族に対しても定期的に意見を聞き介護計画を作成している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画にそって記録しており、日常の状況も記録し介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスやショートステイを今年度より行っており、本人の状態の変化や要望に応じて対応している。	○	地域の方に対して事業所の機能性を知ってもらえるように広報活動を行っていききたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議で協力を呼びかけているが、その場だけとなっている場合が多く具体的な協力体制がとられていない。		利用者・地域資源の接点を見出し、事業所側から積極的に協力の呼びかけ等で地域資源を活用できるように取組んでいきたい。
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の希望に応じて配慮しているが、他事業所のケアマネジャーとの協力体制は不十分である。		他のサービスを受けるにあたって他事業所のケアマネジャーとの話し合い等を行い検討していきたい。
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの方が参加し情報交換や協力関係を築いていけるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する医療機関（病院）に定期的に受診しており、受診結果などについても利用者家族に報告している。又利用者の状態変化についても主治医に連絡し支持を仰いでいる。		主治医や看護師との連携を十分に行い、利用者が適切な治療を受けられるように支援していきたい。
41	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	利用者の主治医は認知症に対して理解はできているが専門医ではないため十分とはいえない。	○	認知症の診断や治療に対して家族の理解を得た上で、利用者に対して助言できる専門医を確保できるようにしていきたい。
42	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携体制により気軽に相談できるよう支援しており、看護師の方も利用者となじみの関係となっている。		
43	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は見舞いや医療機関との連絡や情報交換を行い、利用者の状態を把握した上で早期に退院できるように対応している。		
44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族に対しては入居時に重度化した場合の説明を行い、具体的な方針についても家族と都度話し合いをしているが終末期のあり方に対しては主治医との話し合いが不十分である。	○	入居時から本人や家族の意向について話し合う他主治医とも話し合いをし、意志の統一ができるように取り組んでいきたい。
45	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化に対しては、利用者や家族の意向もあるが当施設側では同法人内の介護老人保健施設への入所ができる体制を整えている。しかし、終末期についての医療機関への体制は整えられていない。	○	本人や家族・医療機関との話し合いを行い、具体的な体制づくりに取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居 所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケ ア関係者間で十分な話し合いや情報交換を 行い、住み替えによるダメージを防ぐこと に努めている	利用者のダメージが最小限となるように、移行 先の事業所に対して情報交換・提供を行い家族に 対しても協力が得られるように働きかけをしてい る。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ね るような言葉かけや対応、記録等の個人情 報の取り扱いをしていない	利用者の呼びかけ・声掛けについては常に本人 を傷つけないように配慮しながら対応している。 又個人情報の取り扱いについても慎重に対応して いる。	○	職員間でプライバシーに対する意識を徹底させ るために話し合いを行う。
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きか けたり、わかる力に合わせた説明を行い、 自分で決めたり納得しながら暮らせるよう に支援をしている	利用者が自己決定できるようにひとりひとりに 合わせた声掛けやコミュニケーション方法で支援 し、意思表示が出来ない方に対しても家族の意向 や本人の表情・態度で希望しているものの把握に 努めている。		
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切にし、そ の日をどのように過ごしたいか、希望に そって支援している	利用者のペースに合わせ希望に応えるように努 力はしているが人員配置や日常業務で限界があり 十分に支援できていない。	○	利用者の希望の把握を行い個人のペースを大切 にするよう職員間で話し合い対応していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれがで きるように支援し、理容・美容は本人の望む 店に行けるように努めている	日頃から化粧等でおしゃれを楽しめるように支 援しており、身だしなみについても本人が整えら れるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は決められているが、調理・準備・後片付け・食事については一緒に行い嗜好調査により利用者の好みについても把握している。		職員と一緒に食事することにより食べこぼしの防止や摂取の促しを行っている。
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者の嗜好については把握しており利用者の状況を配慮しながら嗜好品を取り入れ、日常的に楽しめるようにしている。		
53	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレ誘導を定期的に行い毎日排便のチェックをしている。 日中は下着にパットを使用する等の工夫をしている。失敗した際にはプライバシーや羞恥心に配慮し支援している。		利用者の状態に合わせて、下着・リハビリパンツ・パット等で対処している。
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日が職員側の都合で決まりがちだが、利用者の希望・状況にあわせて調整しており、仲の良い利用者が希望すれば一緒に入浴することことができる等の支援を行っている。		職員側の都合が多い状況であるため、利用者の希望が叶うように取り組んでいきたい。
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動を促し生活リズムを整えるよう努めており、利用者の状態により静養も促している。 夜間不眠の方に対しては眠剤の服用や職員が話し相手になったり、飲み物の提供を行うことで対処している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者ひとりひとりに役割があり、日常生活の中で行ってもらうことで自信が持てるような場面をつくり、趣味・気晴らしについても個別に支援できるよう把握している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に職員側が管理しているが一部利用者に対しては少額ではあるが持つことでジュース等購入している。又外出しての買い物は本人が支払えるように支援している。	○	利用者の力量や希望・家族の意向に配慮し少額でも利用者がお金を持つことの重要性を検討していきたい。
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な外出を支援する体制ができていない。	○	利用者の希望に沿うように人員配置・車両の確保を検討していきたい。
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者が行ってみたいと思うところについては職員で話し合い検討し、外出の行事等で行っているが利用者全員の希望を満たしてはいない。	○	個別の希望を計画できるように家族に協力を依頼する等検討していきたい。
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が電話や手紙でやり取りができるように声掛けする等の支援を行っている。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	職員がお茶等提供して対応しており、気軽に面会に来れるような雰囲気作りを心がけている。		家族、知人等が気軽に来れるような工夫を検討していく。
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束を行わないという姿勢で日々のケアに取り組んでいるが「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しているとは言えない。	○	全職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解できるような勉強会を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけず徘徊等により無断外出の多い利用者に対しては声掛けや付き添いの強化をしている。		
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	定期的な見回りや、プライバシーに配慮しながらの訪室の際、利用者の状態観察し所在や様子を把握している。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	保管・管理をおこなっており、利用者の状態にあわせ職員と一緒に作業し見守り・注意を促している。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	各利用者の状況に応じ予測される事故等を検討しており、事故後は報告書で再発防止に努め全職員に回覧し周知させている。		事故防止の検討・事故等の対応の方法を勉強会で学んでいくようにする。
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時や事故発生時に備えて応急手当や救命講習を実施しているが、定期的な訓練は行っていない。	○	定期的な訓練の実施や積極的に勉強会へ参加する。
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を行っており、地域の方の協力や消防署の協力を得て消火器の取り扱いも学んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	利用者のリスクについては把握しており、その対応についても検討し家族にも連絡や説明をしている。		リスクについて家族に積極的な対応策の説明を行っていく。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	持病・アレルギーの把握はしており、常に利用者の状態変化の兆候を見落とすことのないように観察している。 変化があった場合は職員間で情報が共有できるように記録・対応を行っている。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬剤情報シートにより薬の目的や副作用について理解しており、服薬の変更があった場合は申し送り等で周知している。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防のため水分摂取量や食事に気をつけ運動を促しており、便秘がちな利用者に対しては下剤等で対応している。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	利用者の能力や状態に応じて毎食後の口腔ケアの促しや援助を行っている。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事摂取量を記録しており摂取量が少ない方に対しては副食・おやつ等で対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に対するマニュアルを作成しており、予防のために手洗いやうがい、消毒を行っている。	○	感染症に早期対応できるように定期的な勉強会を行ってきたい。
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所用品は毎日漂白したり定期的に掃除を行っており、食材についても冷凍する等保存方法を工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は季節によって装飾を変え家庭的な雰囲気ができるように工夫しているが、建物の構造上出入り口が分かりづらい面があるため看板等で案内している。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節により装飾を変えたり、ブラインドで日射しや照明等で明るさを考え利用者が居心地よく過ごせるように工夫している。	○	調度品等で家庭的な雰囲気が保てるような工夫が必要である。
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中に思い思いに過ごせるスペースがあり気の合う利用者同士が会話できるように椅子等を設置しているが、数が不足している。		気の合う利用者同士が思い思いに過ごせるように椅子・ソファを増やしていくように検討していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	使い慣れたなじみの物を持ってきてもらうよう に家族に協力を依頼しており、持込みが少ない利 用者に対しては利用者・家族の意向を確認しなが ら居心地よく過ごせるように工夫している。		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう 換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	利用者の状況に応じて換気を定期的に行い、温 度調節についても温度計等を確認しながら調整し ているが冬期間は暖房のせいで乾燥している状況 あり。	○	冬期間の乾燥について検討する必要がある。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	手すりや廊下にベンチがあり利用者の安全配慮 しているが、トイレ・台所の高さ等がはじめて 設置されていることからひとりひとりに合わせる のは難しい。	○	利用者が安全に生活を送れるような工夫を検討 していく。
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	利用者ひとりひとりの状態を観察し把握してお り、必要に応じて声掛けに付き添い説明を繰り返 し行っている。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できる ように活かしている	廊下・玄関にはベンチがありそこに座って休ん だり植物を育てており、夏期にはベランダに野菜 を栽培している。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

現在の機能維持をするため生活作業や歩行訓練・体操行っている他、学習療法等を行い脳の活性化をはかり認知症進行防止に努めることで利用者が少しずつでも出来ることが増えるようにして利用者の自信回復につながる取り組みを行っている。